

憲法改悪の動き

憲法調査会は、過去八カ年の間の調査の結果をまとめて、近頃、その答申書を、政府お日本国政府は、先年、憲法調査会を設立いたしました。

光榮に存じます。

今日の平和憲法擁護大行進の会合にあたりまして、私は、一言お話をさせていたくじとになりました。

南無妙法蓮華經

昭和三十九(一九六四)年五月十六日

| 平和憲法擁護熊本大会にて |

平和憲法擁護論

日本妙法寺藤井日蓮山主法語

憲法調査会は、現在の憲法は、連合占領下の製作なるが故に、米国の押しつけ憲法であることは、占領下の製作なるが故に、占領軍の意図に反対するわけに行かなかったとしてもして、日本民衆の本意を表現したものではないと申しております。調査会必要論者は、現在の憲法も、占領軍の校閥や添削を経たものであります。しかし、また憲法の草案も、占領軍の校閥や添削を経たものであります。この現象は、日本憲法がさくらぶる革新的な特色があるて、旧來の憲法に相反する点があります。保守系の人々は、憲法調査会必要論を唱えて、調査の結果、憲法を改正せんとする意図したがって、この会員の多くは、革新系の人々は比較的少いようであります。憲法調査会の創立にあたって、革新系の人々は、調査会不要論を唱えて、入会を拒否しよび議会に提出することになりました。たるものもありませんでした。

にして、日本民衆の本意を表現したものではないと申しております。調査会必要論者は、現在の憲法は、連合占領下の製作なるが故に、米国の押しつけ憲法であることを表示しておるのであります。この現象は、日本憲法がさくらぶる革新的な特色があるて、旧來の憲法に相反する点があります。しかし、それ故に、今さら憲法を調査し、改正せねばならぬと言つるのは、偏狭なうし、また憲法の草案も、占領軍の校閥や添削を経たものであります。

日本国憲法の調査改正を企てる議論の焦点は、軍備撤廃の前文と、戦争権放棄の条項であります。

連合軍は、日本国が軍国主義にならないことを恐れるあまり、最初は、日本国をして、軍備を全廃せしめ、戦争権を放棄せしむるところが、将来、アジアの和平をたらむ、世界の平和のためにも、必要であると思つたのでしよう。

しかれども、マッカーサー司令官によれば、軍備全廃・戦争権放棄は、彼が指図したものに非ざして、日本政府の意見として提出したようあります。

マッカーサー司令官は、これらの条項を見て、果然失するまことに驚いたと告白しております。

非武装不戦の、戦争をしない、武装をしないといふ憲法は、未だかつて、世界のことになります。

アメリカは、日本国三百箇所の軍事基地によつて、朝鮮戦争を挑発いたしました。

も、前例がなかつたからであります。

その結果は、アメリカは多大の犠牲を払つたにもかかわらず、あわや、玄界灘に押しち落とされんとする不利の戦争をいたしました。

最近、ベトナムやラオス、カンボジア等においても、また朝鮮戦争の一の舞を演じつてしまっています。

日本国は政府も、自由主義國の一員として、ベトナム解放軍殲滅の一役を買つてあります。

これについて、アメリカは公然と、ベトナムの解放軍討伐のために、日本国援助を申入れてきました。

日本国は政府も、自由主義國の一員として、ベトナム解放軍殲滅の一役を買つてあります。

アメリカは、朝鮮戦争に失敗して、東洋支配の政策遂行には、せひとも、日本国援助、軍事基地や軍需物資、なかなかんづく、日本の軍事力を必要とするところに気がついて、先日、大黙位菊花章を受けた吉田茂氏をアメリカに呼んで、日本国に再軍備を押しつけました。

吉田茂氏は、日本国憲法第九条を盾に取つて、この要請に応じなかつたので、アメリカ

は、いさみかがはすれてしましました。
そこで、にわかにタレス大統領顧問を日本に派遣して、愚にもつかぬ、「真空論」や
「戸締り論」を説き立てて、しきりに、日本の再軍備を宣伝しました。
独立国家に軍備がないのは、あたかも、瓶の中が真空になつたようなもので、他から
たちまち空気が侵入するように、国家には外敵が侵入する。」
「独立国家に軍隊がないのは、家に戸繃りがないようなもので、盗人がうかがいやすい。」

こんなことを申しました。
それでもお、手ぬるとして、ニクソン副大統領を日本に派遣して、「アメリカが、
かつて日本国を非武装にしたことには大きな失敗であった。」日本国はすぐ再武
装すべきである」と演説しました。
再軍備こそ、まさしくアメリカの要請であり、アメリカの押しつけであります。
しかし、アメリカの強要に押された憲法第九条の条項はとにかくとして、内、作り
あげつつあるものが、日本国の自衛隊であります。

先年、朝日新聞紙上、日本国の大統領が論ぜられました。

當時の防衛庁のお役人は、人間が目をまばたきして、塵が目にに入るのを防ぐ、人間の手
が、木の切れはしや石ころが飛んできた時、これを防ぐのは人間の本能であると等しく、
独立国家が、外敵の侵略に対し、これを防ぐべきことは当然のことであり、日本国の大
自衛隊は、すでに憲法以前のものであるとか見得を切りました。
「憲法以前の……」と言ふ不敵の言葉が、一時、社会に流行りました。
こんな軍人のためには、憲法の条文などは、チリ紙か、あるいは、便所の清め紙と大差
なく見えるようになります。

今度、この独立国家の本能にして、特權であるといふ自衛権を、一般に徹底せしめ、拡
大せしめ、公然たらしめんがために、これを、日本国憲法に条文化せんとするものが、
そもそも、「自衛」とい、あるいは、「国防」といふことが、國家が武装することによって、
國家が軍備を充実するこによって、國家が戦争手段を採用するこによって、

自衛とは

て、成り立つものでありますようか。

憲法以前の本能論としての日本の再軍備は、その結果、おそれへは、「自衛」に非ずし

て、むしろ「自滅」に終わる公算が強いようあります。

しかししながら原子弹が、前大戦に、日本国の広島と長崎とに投下され、その都市を全滅させ、婦女・幼孩を、一斉に焼き殺した悲劇を見て、「これはいけない」とこれが最後だ」「一度とこんなことができとはいひない」とアメリカの軍隊が言い出しました。

アメリカのケネディ前大統領は、「世界が、これまで知つておった、いかなる爆弾よりも、一千倍も大きな破壊力を持ち、地球上のいかなる標的にも、わずか数分の所に置かれているものが存在している」「国軍備が増大して行くのに比例して、一国民の安全は、かつがつ破壊されて行く」と申しました。

今日、すべての科学者、将軍、政治家、軍事評論家は、一致して左記のこととを認めしま

た。

一、近代兵器は、国防の可能性を全然壊滅させてしまつたこと。

二、近代兵器に対する防禦の方法は、現在および将来にわたくして存しないじと。

三、現代兵器を表現するのに、「防衛」といふ言葉を使つてと自身が、いかに言葉の魔術が、民衆をだますものであるかを示す、極端な例にはからないうじと。

「防衛」といふことは、うそじとであります。

これらを認めております。

米国のマクナマラ国防長官は、アメリカの国防について、次のじとべ申しました。

「ソ連の第一撃の攻撃で、おそらく五千万人のアメリカ人は即死、一千万のアメリカ人は重傷者となるであろう。しかししながら、堅固な避難所に退避することができたものは、十人に一人しか、生き残ることになりますが、それでも、戦争はせねばならないのです。

一千万か、一千五百人くらいは救われるかも知れない。」

十人に一人しか、生き残ることになりますが、それでも、戦争はせねばならないのです。

しょうか。

アメリカの民間防衛について、ヨーロッパでは、地下鉄を退避所に使用せんがために、一千五百ドルをかけて、改造成はどうかという計画があるが、ヒータンソン氏は、「ニューヨークの高層建築が、もし原子爆弾の攻撃によつて、崩壊するとしたならば、地上、*セントラル駅から百駅の瓦礫の山が築かれる。退避所の中の市民は、頭の上に築かれた破壊物の山の下に、窒息して死んでしまわねばならない」と言つて、反対をしました。

英國の防衛については、英國の国防省は次のじとく述べました。

「我々は、今日の実情を考慮に入れなければならない。我々の防衛が、いかに有効であるとしても、わずかに、半ダースの核爆撃機が侵入すれば、一回の攻撃によって、無数の死者と広大な地域の荒廃をきたす。さらに、我々は、たちまち弾道ロケットによる攻

「前大戦における英國の民間防衛は、火災の後始末を整理すること以外に、何の役も立たなかつたに過ぎない。敵の核兵器の効果に対抗する、適切な防衛措置が、現在、存在する英國では、「正気の沙汰ではない」と言つて笑つております。日本国において、防衛省が防衛省に昇格するに至りて、あるいは、憲法に再軍備の条項を承認するに由つて、日本国は、日本国が防衛措置が有効になるなどと主張することは、日本国において、防衛省が防衛省に昇格するに至りて、あるいは、憲法に再軍備の沙汰ではない」と申しております。

うありますよつか。
ソ連は、米国よりも、さらに有利な地理的位置を占めています。
広大な地域に人口、重工業、空軍基地、その他の防衛施設を分散させる余地があります。
そのうえ、大量の核兵器を保有しております。

英國では、「正気の沙汰ではない」と言つて笑つております。以前大戦における英國の民間防衛は、火災の後始末を整理すること以外に、何の役も立たなかつたに過ぎない。敵の核兵器の効果に対抗する、適切な防衛措置が、現在、存在しないといふことは、今日において、火を見るより明らかである」と申しております。

沙汰ではない」と申しております。沙汰にさらされ、新しい段階に入らうとしておる。我々が今、手つ取り早く、この種の攻撃に対して、有効な防衛措置を講ずることができるなどと主張するものは、正気の沙汰日本国において、防衛庁が防衛省に昇格することによって、あるいは、憲法に再軍備の条項を承認することによつて、日本国の防衛措置が有効になるなどと主張することは、

英国防備については、英國の国防省は次のとく述べました。
「我々は、今日の実情を考慮に入れなければならない。我々の防衛が、いかに有効であ
るとしても、わずかに、半ダースの核爆撃機が侵入すれば、一回の攻撃によって、無数
の死者と広大な地域の荒廃をきたす。さらに、我々は、たちまち弾道ロケットによる攻

また、「たとえ一億七千万の米国人が全部、退避所を持つておるとしても、少くとも、その半数は、敵の奇襲攻撃によって死なねばなるまい。結局のこと、熱核戦争には、万全の準備を備えた國民などといふものは、世界中どこにてもありえない」と申しておりました。

アメリカの民間防衛について、ヨーロッパでは、地下鉄を退避所に使用せんがために、一千五百ドルをかけて、改造してはどうかという計画があるが、ヒータソン氏は、「ヨーロッパの高層建築が、もし原子爆弾の攻撃によって、崩壊する」としたならば、地上、*十五駅から百駅の瓦礫のかずらの山が築かれる。退避所の中の市民は、頭の上に築かれた破壊物の山の下に、窒息して死んでしまわねばならぬ」と言うて、

「さきる」と申しております。

これはソ連の防衛は成り立たなくなります。

かくのじとく点検しきたれば、世界最強の防衛力を持つソ連、米国、英國、いづれも現代の飛行機、誘導弾、あるいは、弾道ミサイルによつて運ばれる核兵器に対しては、軍事的防衛は成り立ち得ないといつ事が明らかになりました。

それにもかかわらず、軍事力をもつて、有効に国土を防衛せんとするならば、唯一の方法があるといわれます。

それは、いわゆる攻撃的防禦であります。

現代、核兵器を大量に駆使して、敵に對し先手を打つて、敵国の老幼を、無差別に、大量に虐殺傷害することであります。

世界が奇襲攻撃を恐れるのは、じの点であります。

日本の自衛隊は、そんなことをする自信があるのでしょつか

さても笑止なじとであります。

距離、中距離、サイルにおいては、世界のどの国よりも、はるかに群衆を抜いております。す。

短距離、中距離ミサイルにおいては、世界のどの国よりも、はるかに群衆を抜いておりま

「きる」と申しております。これはソ連の防衛は成り立たなくなります。かくのじとく点検しきたれば、世界最強の防衛力を持つソ連、米国、英國、いざれも現代の飛行機、誘導弾、あるいは、弾道ミサイルによつて運ばれる核兵器に対しでは、軍事的防衛は成り立ち得ないといつ事實が明らかになりました。それにもかかわらず、軍事力をもつて、有効に國土を防衛せんとするならば、唯一つの方法があるといわれます。それは、いわゆる攻撃的防禦であります。

それにもかかわらず、ナント一軍最高司令官ノースタッフ将軍は、こう言つております。

短距離、中距離ミサイルにおいては、世界のどの国よりも、はるかに群衆を抜いておりま

人類の生きる道

今日、諸国(にちゆうこく)の政府が、この種の核兵器を使用して、国民的(こくみんてき)利益を守らんとしておるならば、それは、まさに国家が、人類社会の集団的大虐殺を行つてあります。それによつて、我々の文明のすべでは、一夜にして壊滅(かいめつ)させられることは、今日、すこにあまりにも明らかであります。

核兵器の悲劇(ひげき)のほかに、大軍事(だいぐんじき)国家は、すでに多種多様(たしゅくたしょく)の手段(じょうどん)を講じて、人類を絶滅(ぜつめつ)させる方法(ほうほう)を研究(けんきゅう)しております。

前大戦(ぜんたいせん)に、東京(とうきょう)は焼夷彈(やきいつだん)の空襲(くうしゅう)によつて、八万三千(やまとさんぜん)の男女や子供が、一夜にして、焼き殺(やきなつ)されました。

所詮

我々は、この地球上に相互に殺し合ふかわりに、相互に生きて行くべき問題を解まるでわかつていなひのだ」と申しました。

各國の政府も、參謀本部も、國民も、近代兵器が、人類に対して何を意味するか、な事が、十分に認識されていなかつた。このことは、政府首脳についてもあつては、ラビ教授は、その答えとして、「それは近代戦についての、罪悪と悲劇との、いろいろ一切の國家、なんぞく日本国は、なぜに軍備と戦争との準備をするのでしようか。人間の有用な目的に、役立たなかつたことが、明らかになつておるにもかかわらず、かくのじとく、一切の軍備が、國家の防衛に役立たないのみならず、すべての戦争が、この発言には、すべての國の政府、大国も、小国も、一齊に同意しました。

に、有用な目的に役立つものではない」と申しました。

錯誤的な火遊びになつてしまつた。戦争は、将来においては、けつして人類社会のため「戦争は、過去においては、どんな役割をはしたにせよ、今日において、すでに時代米国のアイゼンハワー大統領は次のごとく断定しました。

す。

日本も、前大戦當時、ハルビン郊外に、細菌戦の準備をしておつたといつてありますことを、くわしかえして言つ」と言つております。

チザム少将は、「これに対して、我々は、まつたく施すへき、防禦法は何もないといつて、そのうえ、言語に絶する災害をもたらすことができる」と申しております。

「すでに案出されておる、細菌戦のいくつかの型は、原子爆弾よりも、さらに危険であり、製造費も安価であり、生産はさらに容易である。しかも、はるかに多くの人を殺す」す。一九五四年の軍縮小委員会において、モック氏は次のように述べました。

このほか、生物化学生戦が準備されております。

参謀長は言つております。

攻撃においては、一般市民の非戦闘員を守ることは不可能だ」と、アメリカの往年のことを語つております。

まさに大城市に対しては、短時間の間に、数百万の市民を殺すことは容易である。このまた、「空軍が、毒ガス爆弾を使用すれば、抜群の有効兵器になる。ロンドンやパリのその死骸の片づけに、飛びまわった少年学徒の兵隊が、今日、生き残って、その悲惨さ

- 決しなければならない。
- さもなくば、我々は近代兵器のために、絶滅しなればならないといつ、運命のもとに置かれています。
- 世界各國の政府も、軍部も、國民も、核兵器の戦争が、何を意味するか、少しも考へておらず、かの広島、長崎の原爆の悲劇が、どんなものであったかは、すでに忘れておりました。
- この時、ほかのいづれの國民にも優れて、核戦争が、何を意味するかを、広島・長崎の事実に照らして、諸國民に、絶えず記憶を呼び起させ、悲惨な状態を想像させる力を持つておるものが、我が日本の國民であります。
- 日本国民は、ほかの諸國民に比して、かの無用なる軍備と、罪悪の戦争とを、この地球に上に、終止せんがための努力を、尽くすべき義務があります。
- 軍備と戦争とを終止せしむる日本國民の義務こそが、すなわち、人類に対する大いなる貢献を行つ機会であります。
- 今や、焦眉の急に差しまるておる核戦争の破局から、近くアジアを救い、さらに人類を救わんがために、我々は日本憲法に制定されたる軍備全廢、戦争放棄の条項を中心
- に守り持たねばなりません。
- 『天鼓』昭和二十九(一九六四)年八月号六九〇頁より
- 17頁 * 校閲[文書・原稿など]の誤りや不備な点などを調べること。 * 添削[文章・答業など]をけり書き加えたりして直し、いそつと良くすること。 * 偏狭[狭き]狭いこと。
- 18頁 * マッカーサー[一八八〇~一九六四]アメリカの軍人。元帥。連合軍西南太平洋方面総司令官として、太平洋戦争を指揮。戦後、日本占領最高司令官として、日本に駐在、占領政策を統轄。朝鮮戦争に際し、国連軍最高司令官を兼任。 * 宋自然失[さうしぜんじし]あっけにとらえたり、あきれはてたりして、我を忘れてしまつこと。 * 挑発[挑つは]相手を刺激して、事件や欲情などを起こすようにしてみけること。
- 19頁 * 二舞[二にじよう]二舞をおかげこと。 * 大勳位菊花章[だいくんいきくわしょう]勲一等上位の、日本最高位の勲等。 * 吉田茂[一八七八~一九六七年政治家。内閣總理大臣]。
- 20頁 * ダレス[一八八八~一九五九]アメリカの政治家。トルーマン大統領の顧問となり、対日単独講和条約を成立させた。 * 悪にもつかぬ[ばかばかしくて話にならない]。 * あたかもまるで。 * すべからく[当然]。 * しかるに[それなのに]。